

東京都北区中里貝塚 保存活用計画策定委員会 第8回会議 議事要旨

日時：令和元年6月10日（月）13:00～15:00

場所：北区飛鳥山博物館 講堂

【出席者】

<委員>

阿部 芳郎 委員長	石川 日出志 副委員長
吉村 晶子 委員	山口 宗彦 委員
松本 晴光 委員	山田 和夫 委員
堀江 正郎 委員	佐々木 富美子 委員

<オブザーバー>

野木 雄大 文化庁文化財第二課 文部科学技官
伊藤 敏行 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

<区関係理事者>

筒井 企画課長	古平 広報課長
馬場 観光振興担当副参事	丸本 都市計画課長
杉戸 道路公園課長	

<事務局>

小野村 教育振興部長	野尻 飛鳥山博物館長	
中島 学芸員	牛山 学芸員	安武 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
 - (1) 保存・活用に向けた基本方針（大綱）および保存管理計画について
 - (2) 活用計画および整備計画案について
 - (3) 運営体制の整備および経過観察案について
4. 報告
 - (1) 中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行
 - (2) ワークショップの報告
5. その他
6. 閉会

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第8回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
4. 議事関係
 - 資料1 『中里貝塚 保存活用計画（案）』
 - 資料1－補足 「(4) 運営・体制の方針」
 - 資料2 『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所
 - 資料3 事業スケジュール
 - 資料4 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 第4号
 - 資料5 国史跡中里貝塚ワークショップ かわら版 第3号

【傍聴人】

傍聴人 0 名

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題

＜議題（1）保存・活用に向けた基本方針（大綱）および保存管理計画について＞

○事務局 一資料説明一

○委員

61 ページの追加指定の考え方の部分で、「諸条件を整えば」という表現があるが、具体的に何を示すのか。また、この計画を初めて読んだ人にも意図する内容が伝わるように表現を工夫してほしい。

○事務局

「諸条件を整えば」の意図としては、そこに住む住民の方々との話し合いや合意形成が重要である点を含んだ書き方となっている。全体的に文章を再考する。

○委員

計画書に記載されている内容は、決定事項なのかどうか。

○事務局

今後の方針であり、時期を見ながら必要に応じて見直しもしていくこととなる。

○委員長

54 ページの活用イメージ図で、ドングリを食べる動物としてはシカよりもイノシシやリスのほうが適していると思うので、少し再考してほしい。

○オブザーバー

A地区の上中里2丁目広場は「遊び場」として史跡指定前に整備されており、トイレや防火水槽などが指定地内にある。57 ページの現状変更の表では、それらの既設の建築物や工作物の取扱を具体的にどうするのか、少し分かりにくいと思う。

○オブザーバー

現状変更の頻度としては工作物のほうが多いので、建築物と同じように分けけて記述すると分かりやすいと思う

○委員

植栽の取扱に関して、「高木」は割と深根性の植物が多く、地下の貝層に影響を与えるかもしれないので、樹種や工法を十分検討する必要がある。

○オブザーバー

根を包んだ形で植えるなど、地下遺構に根が進んでいかない工法もあるので、高木の必要性に関しては今後の整備計画のほうでしっかりと検討してほしい。

○委員

高木に関して、既存にある木はそれなりに管理し、新しく植えることはやめよう、という考え方か。

○オブザーバー

遺構に影響を与えている「支障木」は、伐採するなどの整備も必要となる。また、新規植栽の場合は根が広がりやすい木を選んだり、高木を植えても大丈夫な遺構の深さを検討するなど、いくつか方法がある。

<議題（2）活用計画および整備計画案について>

○事務局 一資料説明一

○委員

史跡の活用においては、文化的、学術的な側面を主目的にして活用していく形で進めてほしい。地域振興ということで観光面をあまり強調すると、本来の目的から逸れてしまうおそれがある。

○オブザーバー

文化財の活用としては、文化財の価値を理解してもらうことで、さらに文化財の保存に繋げようとい

う前提がある。書き方は難しいが、少し表現を工夫してほしい。

○委員

64 ページや 65 ページにおいて、住宅密集地にある史跡ということで、「住民生活に配慮した施設整備や景観整備を図る」とあるが、ハード面での整備だけでなく、ソフト面での対応も盛り込んでほしい。例えば、大人数の見学に関するルール作りなど。

○オブザーバー

具体的な活用イメージを示すため、ターゲットをいくつかに分けて、①地元住民と一緒に史跡まつりなどを開催、②地域の小中学生の授業の一環としてVRなどを教材として活用、③区外からの来訪者に史跡を知ってもらうための仕掛けづくり、といった形で整理してほしい。

○委員長

史跡の学術的な側面を軸足として、地域住民の方々の協力を得ながら、ボランティア団体をつくるなど、そういう部分も盛り込んでいくと良いと思う。

○委員

現状では中里貝塚に行っても何もないので、現場や現地に近いところで何か見られたりするものがあるといいと思う。特に、子ども達が見て興味を持ってもらえるような仕掛けが必要。

○委員

68 ページの今後の計画のところ、短期的な取り組みが「概ね 10 年以内」というのは長すぎると思う。2 年くらいのスパンで、すぐにできることから進めてほしい。

○事務局

計画期間に関しては、『北区基本計画 2020』との整合性を図りながらの記述となるため、「概ね 10 年以内」としているが、今後、整備計画を検討していく中で、すぐに取り組むべき内容も整理していく。

< 議題（3）運営体制の整備および経過観察案について >

○事務局 一資料説明一

○委員

夏休みに学芸員資格取得のための勉強で大学生が博物館に来るので、それに合わせて小中学生向けに史跡見学会を開催してほしい。

○事務局

夏休みの小中学生向けの講座は、現在企画しているものはないので、今後行っていく予定。

○副委員長

67 ページの運営・体制のところ、区役所や学校、地元、文化庁など、史跡に関わる組織や団体等をまとめた「体制図」を追加してほしい。

○委員

68 ページの第 10 章で、「整備計画を検討する委員会を組織する」とあるが、こういった組織の立ち上げも早く進めてもらい、すぐに実現可能な整備活用に早く取りかかってほしい。

○事務局

整備計画を検討する委員会は、来年度に立ち上げる予定となっている。

○副委員長

史跡の活用について、全国でいろいろな取り組みが行われているので、他自治体の事例を紹介する項目を追加してほしい。

○委員

現地での環境整備に加えて、情報発信やルート設定、年代別のガイドブックなどの取り組みについても盛り込んでほしい。

○オブザーバー

51 ページ前後の「指定地の現状」に関して、写真などを増やしてもう少し詳しく記述してほしい。

4. 報告

<報告（1）中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行>

<報告（2）ワークショップの報告>

○事務局 一資料説明一

5. その他

※事務局から、次回委員会の日程について説明。

6. 閉会

以上